

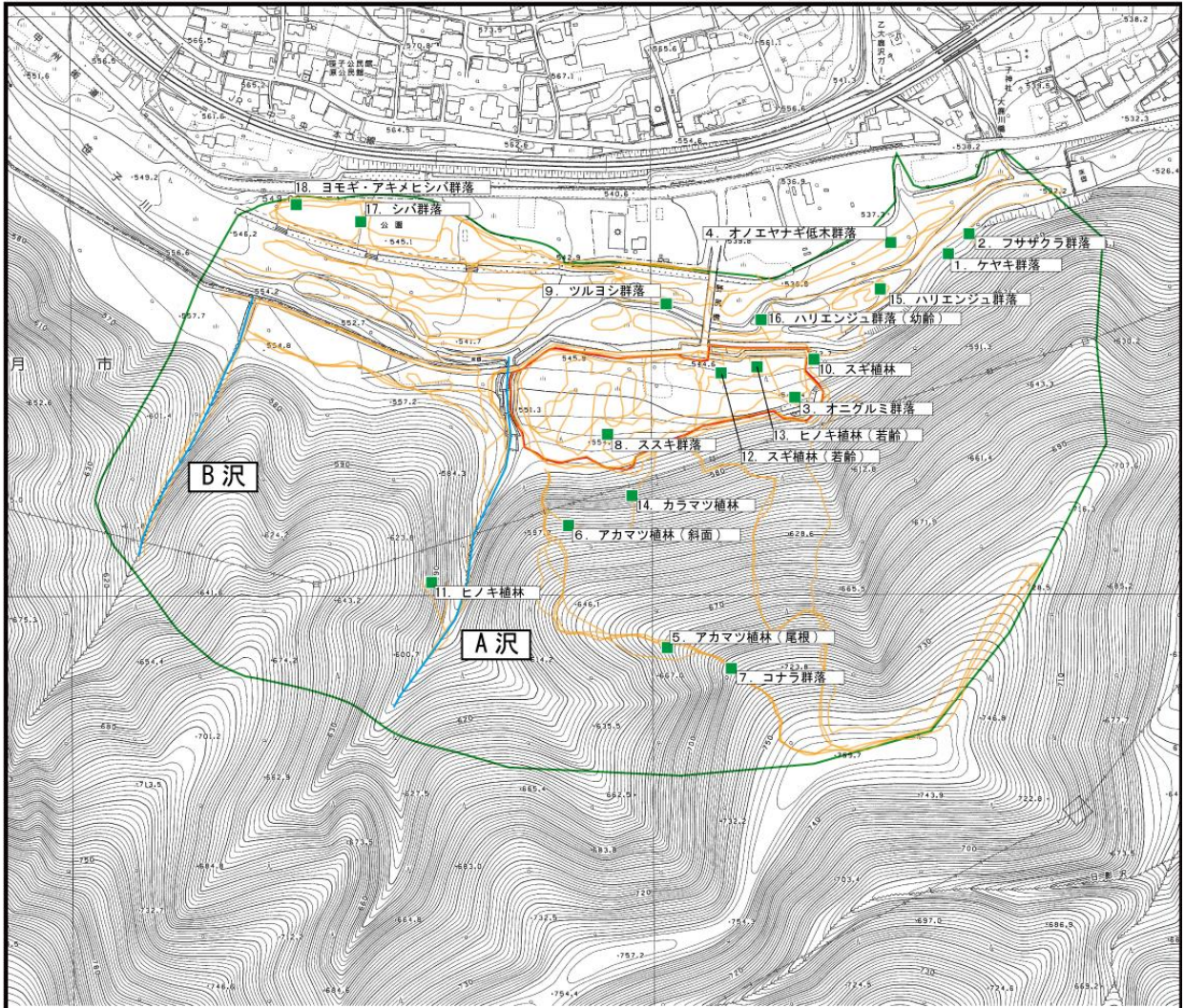
9-11 植物

9-11 植物

9-11-1 調査結果の概要

(1) 調査地域・調査地点

植物への影響が及ぶおそれがあると認められる地域とし、概ね計画地内及び計画地外周より 200m 以内の範囲とした。植物の調査位置図は図 9-11-1 に示すとおりである。



凡 例

- ： 計画地
- ： 植物調査範囲
- ： 群落調査地点
- ： 踏査ルート



S=1 : 6, 250

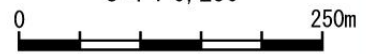


図 9-11-1 植物調査位置図

(2) 調査結果

1) 現地調査

① 現地調査期日

調査期日は表 9-11-1 に示すとおりである。

表 9-11-1 植物の現地調査期日

調査内容	調査期日
植生調査	平成24年10月9日-10日（秋季）
植物相調査	平成24年7月27日-28日（夏季）
	平成24年10月9日-10日（秋季）
	平成25年3月30日、5月22日-23日（春季）

② 植生

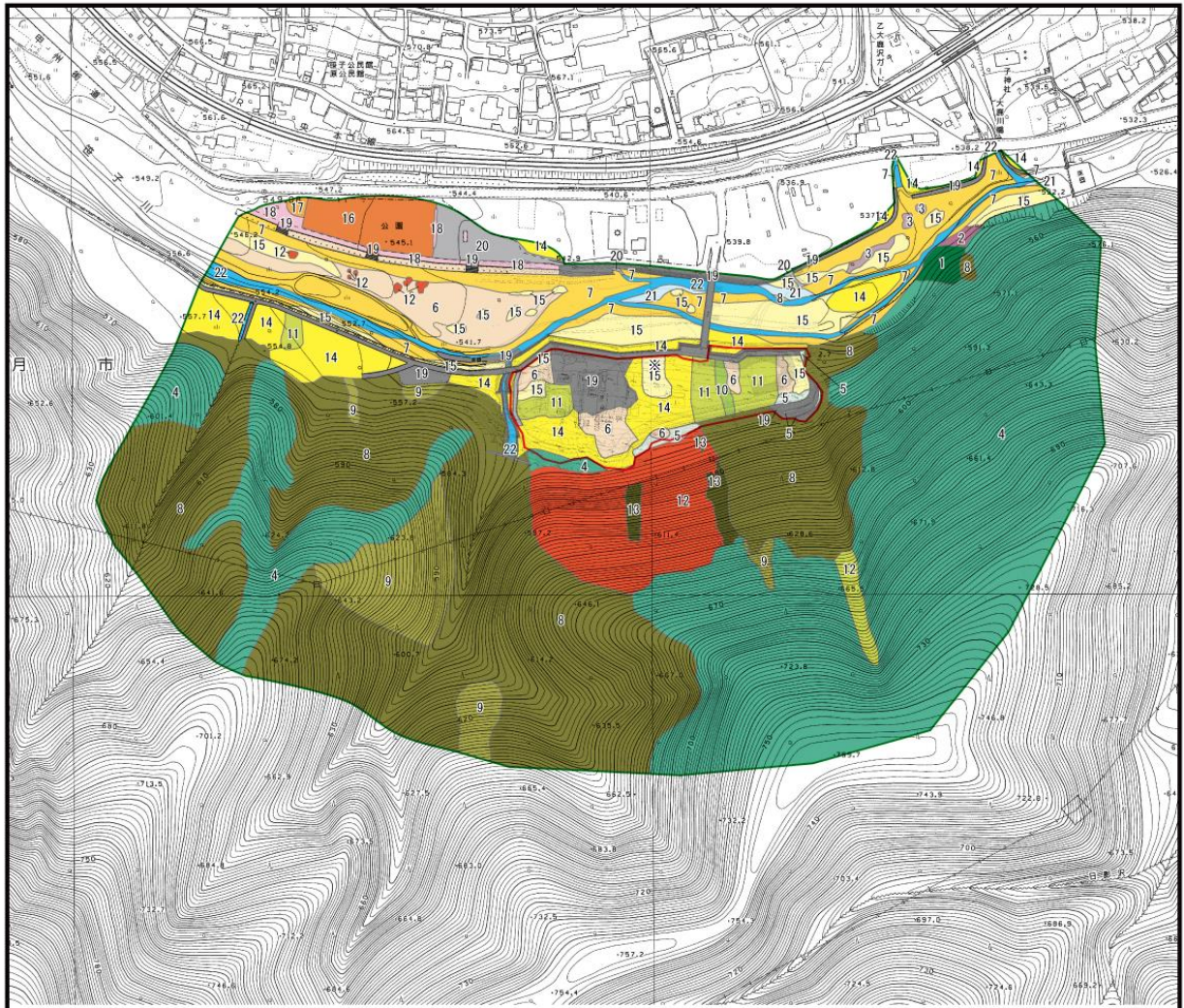
調査地は山梨県東部の笹子川（相模川水系）沿いに位置し、気候帯としては暖温帯と冷温帯の移行帯、植生帯としてはヤブツバキクラス域上部からブナクラス域下部に属している。調査範囲は、北部を西から東に流下する笹子川の河川敷および河岸、笹子川右岸側の斜面および笹子川に流入する沢から成り、標高 530～760m である。なお、計画地はリニア実験線建設跡地であり、建設後 10 年以上経過し現在は製材業の作業場および植林地などに利用されている。

笹子川の河川敷にはツルヨシ群落、ハリエンジュ群落などが分布、左岸側の河岸は公園として利用されておりシバ群落などが分布していた。右岸側の斜面にはスギ植林、コナラ群落などが分布していた。笹子川右岸側斜面は調査範囲下流部において崖地となっている箇所があり、崖地付近の急斜面にはケヤキ群落などが分布していた。また、笹子川は調査範囲下流部において左岸側からの支川流入があり、さらに下流側には床固があり、湿地状になっている箇所にはオノエヤナギ低木群落などが分布していた。

調査範囲内の現存植生は、表 9-11-2 に示すとおりに区分した。また、現存植生図は図 9-11-2 に示すとおりである。なお、植物群落コードラート調査結果は資料編に示す。

表 9-11-2 現存植生の区分

植生区分			No.
自然植生	落葉広葉樹林	ケヤキ群落	1
	河辺林	フサザクラ群落	2
		オノエヤナギ低木群落	3
代償植生	落葉広葉樹二次林	コナラ群落	4
		オニグルミ群落	5
	二次草原	ススキ群落	6
河辺植生	河川敷砂礫地植生	ツルヨシ群落	7
植林地・耕作地植生	植林地	スギ植林	8
		ヒノキ植林	9
		スギ植林(若齢)	10
		ヒノキ植林(若齢)	11
		アカマツ植林	12
		カラマツ植林	13
		ハリエンジュ群落	14
		ハリエンジュ群落(幼齢)	15
		芝地	シバ群落
	ヨモギ・アキメヒシバ群落		17
	その他	市街地等	植栽
住宅地、道路、人工構造物			19
人工裸地			20
自然裸地			21
開放水域			22



大月市基本図 吉久保（大月市）

凡例



：計画地



：植物調査範囲

植生区分	群落名	凡例		
ヤブツバキクラス域自然植生	落葉広葉樹林	1		
	河辺林	2		
ヤブツバキクラス域代償植生	オノエヤナキ低木群落	3		
	落葉広葉樹二次林	4		
	コナラ群落	5		
河辺植生	オニグルミ群落	6		
	二次草原	7		
植林地・耕作地植生	河川敷砂礫地植生	8		
	植林地	ツルヨシ群落	9	
		ススキ群落	10	
		ヒノキ群落	11	
		スギ植林(若齢)	12	
		ヒノキ植林(若齢)	13	
		アカマツ植林	14	
		カラマツ植林	15	
		ハリエンジュ群落(幼齢)※	16	
		シバ群落	17	
		ヨモギ・アキメシバ群落	18	
		その他	市街地等	19
			植栽	20
			住宅地、道路、人工構造物	21
自然採地	22			

※計画地中央部イヌエンジュ植林含む



S=1 : 6,250



図 9-11-2 現存植生図

各植生の概説は以下に示すとおりであり、群落写真は、表 9-11-3(1)～(3)に示すとおりである。

No. 1 ケヤキ群落

笹子川沿いの急斜面に生育していた。高木層の高さ 18m の落葉広葉樹高木林である。高木層は植被率 95% でケヤキが優占し、亜高木層は植被率 10% でイロハモミジ等が生育し、低木層は植被率 70% でムラサキシキブが優占し、草本層は植被率 30% でクマワラビ等が生育していた。ケヤキ群落は、ヤブツバキクラス域からブナクラス域上部にかけての溪谷沿いの崖錐、低地の微高地等にみられる自然林である。

No. 2 フサザクラ群落

笹子川沿いの急斜面下の崩積地に生育していた。低木層の高さ 8m の落葉広葉樹低木林である。低木層は植被率 100% でフサザクラが優占し、草本層は植被率 5% でアブラチャン等が生育していた。フサザクラ群落は、ヤブツバキクラス域上部からブナクラス域下部において、沢筋の崩壊性の強い立地に成立する自然林である。

No. 3 オノエヤナギ低木群落

笹子川河川敷の左岸側から支流が流入している箇所付近に生育していた。低木層の高さ 5m の落葉広葉樹低木林である。低木層は植被率 50% でオノエヤナギ・タチヤナギが優占し、草本層は植被率 60% でツルヨシが優占していた。ヤナギ低木群落は、ヤブツバキクラス域の河辺に成立する自然林である。

No. 4 コナラ群落

斜面上部・尾根を中心に広く分布していた。高木層の高さ 18m の落葉広葉樹高木林である。高木層は植被率 80% でコナラが優占し、亜高木層は植被率 40% でサワシバ・アワブキ等が生育し、低木層は植被率 10% でダンコウバイ等が生育し、草本層は植被率 2% でコウヤボウキ等が生育していた。アワブキ・ダンコウバイ等が生育するコナラ群落はクリーコナラ群集にまとめられ、太平洋側のヤブツバキクラス域上部からブナクラス域にかけて、山地、丘陵地に成立する二次林である。

No. 5 オニグルミ群落

計画地周縁の崩積斜面等に生育していた。低木層の高さ 6m の落葉広葉樹低木林である。低木層は植被率 60% でオニグルミが優占し、草本層は植被率 90% でススキが優占していた。オニグルミ群落は、ブナクラス域からヤブツバキクラス域にかけて、河岸、法面、崩積斜面等に先駆的に成立する落葉広葉樹の二次林である。

No.6 ススキ群落

計画地内および笹子川河川敷に分布していた。群落高 1.1m の多年生高茎草本植物群落である。草本第1層は植被率 70% でススキが優占し、草本第2層は植被率 60% でヒメジソ等が生育していた。ススキ群落は、ヤブツバキクラス域の放牧地、伐採跡地、畑放棄地、河川敷等に成立する二次草原で、数年ごとの刈り取りや火入れによって維持され、放置期間が長期にわたると低木群落に遷移する。

No.7 ツルヨシ群落

笹子川河川敷に広く分布していた。群落高 1.8m の多年生高茎草本植物群落である。植被率 100% でツルヨシが優占していた。ツルヨシ群落は、山地から低地を流れる河川の急流辺や冠水地の砂礫土上に形成され、匍匐茎によって洪水による埋積に耐える。

No.8 スギ植林

斜面および谷部を中心に広く分布していた。高木層の高さ 15m の常緑針葉樹高木林である。高木層は植被率 95% でスギが優占し、亜高木層は植被率 10% でヒノキが生育し、低木層は植被率 40% でアブラチャンが優占し、草本層は植被率 5% でシオデ等が生育していた。スギは用材として重要で、ヤブツバキクラス域からブナクラス域に広く植栽されている。

No.9 ヒノキ植林

スギ植林に隣接して分布していた。高木層の高さ 15~16m の常緑針葉樹高木林である。高木層は植被率 95% でヒノキが優占し、亜高木層は植被率 5% でヒノキが生育し、低木層は植被率 1% でアブラチャン等が生育し、草本層は植被率 5% でフジ・フタリシズカ等が生育していた。ヒノキは用材として重要で、ヤブツバキクラス域からブナクラス域に広く植栽されている。

No.10 スギ植林(若齢)

計画地内に分布していた。高木層の高さ 10m の常緑針葉樹高木林である。高木層は植被率 80% でスギが優占し、低木層は植被率 10% でスギ・ヒノキが生育し、草本層は植被率 90% でススキが優占していた。

No.11 ヒノキ植林(若齢)

計画地内および周辺域の斜面下部に分布していた。高木層の高さ 8m の常緑針葉樹高木林である。高木層は植被率 90% でヒノキが優占し、草本層は植被率 80% でススキが優占していた。

No. 12 アカマツ植林

計画地に隣接する斜面～尾根に分布していた。高木層の高さ 17～20m の常緑針葉樹高木林である。高木層は植被率 60～80% でアカマツが優占し、亜高木層は植被率 60% でクマノミズキ・ホオノキ等が生育し、低木層は植被率 5～40% でアブラチャン・ヤマツツジ等が生育し、草本層は植被率 5% でチゴユリ・フジ等が生育していた。アカマツは本州、四国、九州の山地から低地に自生し、貧養で乾燥する立地にも生育することから、斜面上部から尾根を中心に植栽される。

No. 13 カラマツ植林

斜面のアカマツ群落に混じって分布していた。高木層の高さ 20m の落葉針葉樹高木林である。高木層は植被率 80% でカラマツが優占し、亜高木層は植被率 13% でカラマツが生育し、低木層は植被率 90% でアブラチャンが優占し、草本層は植被率 5% でヤマブキ等が生育していた。カラマツは本州中部の火山性崩壊地、河辺等に自生する。高冷に対する抵抗性が高いため北海道から九州まで高海拔地を主に広く植栽されている。

No. 14 ハリエンジュ群落

計画地内、周辺域の斜面下部、笹子川河川敷および河岸に広く分布していた。計画地内および周辺域の斜面下部のハリエンジュ群落は植栽されたものと考えられる。河川敷および河岸のハリエンジュ群落は周辺の植栽木から種子が散布され逸出したものと考えられる。高木層の高さ 15m の落葉広葉樹高木林である。高木層は植被率 90% でハリエンジュが優占し、亜高木層は植被率 10% でオニグルミが生育し、低木層は植被率 5% でハリエンジュが生育し、草本層は植被率 90% でススキが優占していた。北米原産のマメ科植物ハリエンジュ（ニセアカシア）の植林または逸出による二次的な群落である。ハリエンジュは緑化樹として植栽されたものから逸出し、河川敷、海岸砂丘、崩壊地、伐採跡地等に二次的に生育域を広げている。

No. 15 ハリエンジュ群落(幼齢)

計画地内、笹子川河川敷に分布していた。計画地内のハリエンジュ群落(イヌエンジュ含む)は植栽されたものと考えられる。河川敷のニセアカシア群落は周辺の植栽木から種子が散布され逸出したものと考えられる。低木層の高さ 6m の落葉広葉樹低木林である。低木層は植被率 80% でハリエンジュが優占し、草本層は植被率 60% でススキが優占していた。

No. 16 シバ群落

笹子川の左岸の公園に分布していた。群落高 0.1m の低茎草地である。植被率 95% でシバが優占しシロツメクサ等が混生していた。公園の芝生として植栽管理されている草地であり、頻繁な刈り取りによって維持される。

No. 17 ヨモギ・アキメヒシバ群落

笹子川の左岸にある公園に分布していた。群落高 0.2m の低茎草地である。植被率 50% でアキメヒシバ・ヨモギ・シバなどが混生していた。ヨモギは路傍・空地などに生育する多年生草本、アキメヒシバは農耕地・路傍などに生育する 1 年生草本である。

表 9-11-3(1) 植物群落写真

 <p>1 ケヤキ群落</p>	 <p>2 フサザクラ群落</p>
 <p>3 オノエヤナギ低木群落</p>	 <p>4 コナラ群落</p>
 <p>5 オニグルミ群落</p>	 <p>6 ススキ群落</p>

表 9-11-3(2) 植物群落写真

 <p>7 ツルヨシ群落</p>	 <p>8 スギ植林</p>
 <p>9 ヒノキ植林</p>	 <p>10 スギ植林(若齢)</p>
 <p>11 ヒノキ植林(若齢)</p>	 <p>12 アカマツ植林</p>